

史跡等の指定等

《史跡の新指定》 10件

1 栗木鉄山跡【岩手県気仙郡住田町】

栗木鉄山跡は、北上高地の南部で、気仙川水系大股川の最上流に接して位置する、近代の民営製鉄所跡である。近隣は近世から、たたら製鉄が盛んで、他所で高炉を営んでいた熊谷又兵衛が栗木沢に明治13年（1880）に高炉を設け、陀ノ鼻鉾山から鉄鉾石を採掘し銑鉄を生産した。39年頃からは鑄物工場の操業を開始し、41年には高炉内に送る空気を加熱するための熱風炉付き第二高炉を増設した。43年に地元資本による栗木鉄山株式会社が発足し、その年から大正2年（1913）には、釜石製鉄所の20分の1とはいえ、国内民間製鉄所で第三位の銑鉄生産量を上げた。第一次世界大戦中の好景気で絶頂期を迎えるが、大戦終結後の大正9年に廃業となった。

発掘調査等では二基の高炉跡、事務所跡、大股川から取水し高炉への送風用 鞆の動力源としての水路跡、鑄物工場跡などが検出されている。このうち、第1高炉跡はタタキ土の炉底と7段の耐火煉瓦が残っており、第2高炉跡は高炉基壇、熱風炉跡とその煙突基壇が検出された。古写真等によれば、両高炉では斜面の上から鉄鉾石や木炭を棧橋を使って投入した。明治34年開業の八幡製鉄所が42年に初めて黒字になったように、釜石田中製鉄所以外には大きな民間製鉄所がなかった時代の数少ない製鉄所の遺構として貴重である。

2 天王山遺跡【福島県白河市】

天王山遺跡は、阿武隈川左岸の標高407mの独立丘陵頂上部に立地する弥生時代後期前半（1世紀頃）の集落遺跡で、天王山式土器の標式遺跡として著名である。昭和25年、開墾中に発見され、開墾と平行して行われた発掘調査により多量の土器と石器、植物質遺物（炭化米、炭化クリ、炭化クルミ、炭化木皮、炭化草など）が出土するとともに、土坑や集石遺構、焼土遺構などを検出した。出土した多量の土器は、「天王山式土器」として設定されるなど、東北における弥生時代後期前半の標式遺跡として、その後の研究にも強い影響を及ぼすことになった。

平成28年から30年にかけて、白河市が行った発掘調査で、複数の堅穴建物が発見されたことにより、長い間不明であった遺跡の性格が集落であることが明らかになり、弥生時代後期前半における集落の立地や構造、多量の植物質遺物から想定される生業や食生活など、当時の社会構造を知る上でも新たな知見を加えることができた。

3 取掛西貝塚【千葉県船橋市】

取掛西貝塚は、東京湾東岸の最奥部に位置する縄文時代^{そうきぜんよう}早期前葉の貝塚を伴う集落である。船橋市教育委員会による発掘調査により東西約320m、南北約100mの範囲から早期前葉に属する^{たてあなたてもの}竪穴建物58棟と、ヤマトシジミを主体とする貝層が検出されている。これらの調査で遺構の分布と変遷が明らかになっただけでなく、狩猟に用いられた^{せきぞく}石鏃、堅果類^{けんかるい}の加工に用いられた^{すりいし たたきいし いしざら}磨石・敲石・石皿といった各種石器と、^{こつぼり しとつぐ かいじん}骨針や刺突具、貝刃などの^{こつかくかいせいひん}骨角貝製品の内容から集落で行われた生業の様子が明らかとなった。また焼けたイノシシやシカの^{ずがいこつ}頭蓋骨が並べられた状態で出土した竪穴建物からは当時の精神文化の様相を窺い知ることができる。

早期前葉の貝塚は全国的にも数が少なく、本遺跡は集落と貝塚の関係がわかる貴重な事例である。また、東京湾東岸は列島の中でも貝塚が多く密集する地域として知られ、早期から晩期まで、縄文時代各時期の貝塚が分布しているが、その中でも取掛西貝塚は最古段階の貝塚を伴う集落であり、地域における貝塚形成の開始期の状況を知る上で欠くことのできない遺跡である。豊富な出土品から当時の生活の様子を復元することができ、また早期の精神文化にも迫ることのできる^{けう}稀有な遺跡である。

4 飯盛城跡【大阪府大東市、四條畷市】

飯盛城跡は、戦国時代、畿内^{きない}一円を支配した三好長慶^{みよしながよし}が拠点とした山城跡。標高314mの^{いもりやま}飯盛山に築かれ、東西約400m、南北約700mで西日本有数の規模を誇る。飯盛城が記録に初めて現れるのは、享禄3年(1530)、木沢長政^{きざわながまさ}の居城としてである。その後、^{やすみむねふさ}安見宗房の時代を経て、永禄3年(1560)、三好長慶が入城した後は、京と畿内を支配した三好政権の拠点として機能し、^{れんが}連歌や茶の湯等の当時最先端の文化交流の場ともなった。飯盛城に関する寺社文書や公家の日記、軍記物等、豊富な史料が残されており、また、城を訪問したイエズス会宣教師を通じて、ヨーロッパで刊行された文献や地図でも紹介されている。長慶の死後、養子の^{よしつぐ}義継が若江城に居城を移した永禄12年(1569)頃に城郭の機能を失ったものと考えられる。

大東市及び四條畷市教育委員会による発掘調査等により、戦国時代末期の^{じょうかくいこう}城郭遺構が良好に遺存し、北エリアの^{くるわぐん}防御空間の曲輪群と南エリアの居住空間の曲輪群からなることや、城の全域に石垣が多用されていたことが確認された。我が国戦国時代末期の畿内を中心とする政治・軍事の様相や、^{しよくほうけいじょうかく}織豊系城郭の形成過程を知る上で貴重である。

5 條ウル神古墳【奈良県御所市】

條ウル神古墳は、奈良盆地の南西端、巨勢山丘陵から北へ伸びる支尾根上に位置する古墳時代後期の巨大な横穴式石室を有する古墳である。その存在は明治時代から知られていたが、昭和58年度の分布調査で史跡巨勢山古墳群を構成する円墳として確認され、その後の発掘調査により古墳の概要が判明した。古墳は墳長60～70mで、主軸又は長軸を北西から南東方向とする前方後円墳又は長方形墳と考えられる。北側墳丘の両袖式横穴式石室は全長15.6m以上、玄室長7.1m以上、玄室幅2.6m以上、玄室高4.2mで、奈良盆地では同時期の最大の史跡丸山古墳に次ぐものである。細長い長方形の玄室平面形態から古代氏族巨勢氏を被葬者と想定する意見も示されている。

玄室には、近畿の首長墓に利用された二上山産白色凝灰岩製の刳抜式家形石棺が納められ、その棺蓋には長辺に各3、短辺に各1の特異な配置の縄掛突起が設けられる。副葬品には金銅製冠、金銅製空玉・銀製空玉などが存在し、古墳は6世紀後葉の築造と考えられる。このように、條ウル神古墳は6世紀後葉に築造された奈良盆地南西部に関係の深い有力首長の古墳で、ヤマト政権を構成する古代氏族の実態を知る上で重要な古墳である。

6 伊勢本街道【奈良県宇陀郡曾爾村】

伊勢本街道は、西国から大和を経てから伊勢神宮に参詣することを目的として、近世を通じて最も利用された街道である。萩原（奈良県宇陀市榛原）で伊勢北街道と分かれ、宇陀郡内を東へ進み、飼坂峠を越えて田丸（三重県玉城町）経由で伊勢に至る。文政11年（1828）に建立された道標が残存しており、その銘文には「右いせ本かい道」とある。江戸時代後期になると、伊勢参詣だけが旅の目的ではなくなったため、遠回りでも難所が少なく、町場を通る伊勢北街道の需要が高まった。しかし、伊勢本街道は、大小8つの峠が存在し、難所が多いにもかかわらず、江戸時代を通じて伊勢参詣のための信仰の道として機能した。

今回指定するのは、伊勢本街道のうち、曾爾村域の山粕峠と鞍取峠である。いずれも地道が良好に残されており、山粕峠では、発掘調査で幅1.5m前後の旧道跡が確認されている。鞍取峠には峠の入口に「いせみちみきゑ」と刻まれた貞享元年（1684）の道標が残る。この道標は、年紀が判明する奥宇陀地域の道標の中で最も古い。このように、伊勢本街道は、近世における伊勢信仰及び参詣の様相を明らかにする貴重な遺跡である。

7 久喜銀山遺跡【島根県邑智郡邑南町】

久喜銀山遺跡は、中国山地脊梁部の北斜面に広がる山地帯に立地する、方鉛鉱等を産出した戦国時代から近代にかけての鉱山遺跡である。方鉛鉱にはほとんどのものに少量の銀を含んでいる。久喜銀山の初見は16世紀末で、江戸時代には石見銀山と共に天領となり、18世紀初頭には操業は停止した。その後、明治時代には堀家経営の鉱山として活況を呈したが、明治42年に製錬を停止した。

東西3km、南北2kmの範囲に、西から久喜岩屋・床屋・大林の3つの鉱脈群に1536箇所の採掘跡が確認され、多くが江戸時代以前の露頭掘りであった。久喜岩屋鉱脈群の南端の縄手吹所跡では16世紀後半頃の銀の製錬炉が検出された。床屋吹所跡では銀生産の工程として焼竈→鉛吹床→灰吹→ろかす吹床が想定され、このうち灰吹を除く各段階の17世紀後半頃の遺構が検出された。近代の遺構である久喜製錬所跡では、採掘された鉱石を乾燥、焙焼、製錬する遺構が検出された。また、久喜銀山は石見銀山で行われた灰吹法に必要な鉛を供給したとみられる。

銀や鉛を産出する鉱山の採掘から製錬までの過程に使用された遺構等の調査例はなく、久喜銀山遺跡での調査例が初見とみられ、中世から近代における日本の銀生産技術を示す優れた数少ない遺跡である。

8 佐田谷・佐田峠墳墓群【広島県庄原市】

佐田谷・佐田峠墳墓群は、弥生時代中期末から後期前葉（紀元前1世紀～1世紀頃）にかけて西城川左岸の標高約300mの低丘陵の頂部に築造された、四隅突出型墳丘墓3基、方形台状墓4基、方形周溝墓1基の8基からなる墳墓群である。おおよそ東西250mの範囲に3群にまとまる形で造られている。

弥生時代中期末には古相の四隅突出型墳丘墓を含む多様な形態の墳墓が、墓坑の掘削・埋葬と墳丘の盛土を繰り返すことで徐々に構築されている。また、墓坑は並列に配置され、主に在在系の土器が周溝に据えられる。その後、弥生時代後期初頭以降には墳形は方形台状墓が主となり、墳丘の構築後に墳頂部から墓坑が掘り込まれるようになる。また、大型墓坑を中心に周囲に他の墓坑が配されるなど、明確な中心埋葬がみられるようになる。それに加えて吉備系の土器が使用され、墓坑上に土器が供献されるようになる。

以上より、日本列島において首長墓が出現する弥生時代中期から後期にかけて、墳丘築造と埋葬の関係、埋葬施設の配置、墳墓祭祀の変遷が同一の墳墓群の中で明らかになった事例であり、地域間関係の展開と有力者集団内の構造の変化の実態を知る上で重要である。

9 弓削島莊遺跡【愛媛県越智郡上島町】

弓削島莊遺跡は、瀬戸内海の芸予諸島の東端に位置する上島諸島に属する弓削島及びその北東に浮かぶ百貫島とその周辺海域からなる、12～15世紀に経営された莊園遺跡である。莊園は平安時代後期に存在し、鎌倉時代前期の延応元年（1239）以降は東寺領（教王護国寺（京都市））の莊園となった。「東寺百合文書」等に関係史料が多数残り、塩を貢納した莊園として、日本中世史研究上著名である。

上島町教育委員会が平成28年度から令和2年度にかけて実施した弓削島莊総合調査に基づき、莊園に関わる東泉寺、高浜八幡神社、願成寺、弓削神社、定光寺、揚浜式塩田であったと考えられる大田林の塩浜、及び弓削島の北東に位置し漁業が行われた百貫島とその周辺海域を指定する。文書にみられる塩浜、寺社など莊園時代の痕跡が今も遺存しており、中世の莊園の具体的様相を知る上で稀有な事例であるとともに、瀬戸内海における中世の製塩業の実態や、瀬戸内海の海上交通を知る上でも重要である。

10 陣ノ内城跡【熊本県上益城郡甲佐町】

陣ノ内城跡は緑川と流域の平野を見下ろす標高約100mの平坦地上に立地する。堀と堀の内側に沿った土塁が明瞭に残り、その規模は発掘調査で確認されたものを含めると、東西210m以上、南北190m以上に及び、北西と南東に虎口をもつ方形の城跡であることが明らかになった。江戸時代中期頃から阿蘇大宮司の館跡と伝えられ、中世の輸入陶磁器なども出土するが、肥後国内で突出した規模を持つこと、大規模な堀と土塁で構成される城の構造は、豊臣系大名の城に共通することから、天正16年（1588）に入部した小西行長が、阿蘇氏の拠点が置かれた場所に築城したとする見方が示されている。

肥後国における中世城館の中でも、突出した規模を持つ保存状態が良好な城跡である。城跡のある場所は水陸交通の要衝であり、文献史料と出土遺物などから長期間にわたって継続的に利用されたと考えられる。阿蘇氏から豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を考える上でも重要である。

《名勝の新指定》 1件

1 臥龍山莊庭園【愛媛県大洲市】

臥龍山莊庭園は大洲の旧城下町東部の外れに位置する。この付近は蛇行しながら北へ流れる肱川が淵と瀬を形成しており、庭園はその淵に面する左岸の崖の上にある。

臥龍山莊庭園は、新谷（現・大洲市新谷）出身の貿易商河内寅次郎（1853～1909）が明治後期に造営したもので、建物と庭園のある崖、その東側にある「蓬萊山」と呼ばれる島、それらのある間にある溪谷「臥龍の淵」の3つの部分からなる。崖の上の平場は南北に細長く、北側に臥龍院、南端に懸造の不老庵などの建築物が造られている。臥龍院から不老庵までは飛石や延段の園路がのび、不老庵の座敷からは、肱川が大きく方向を変えて淵をなし、眼下を流れゆく様が見える。蛇行する肱川の向こうには、富士山、梁瀬山、亀山等が周りを取り囲むように裾を重ね、壮大な景観が広がる。また、臥龍の淵近辺は人々の観賞の対象になっており、現在まで大洲を代表する景観の一つであり続けている。

臥龍山莊庭園は、周辺の景観を大きく取り込んで空間を構成している点が極めて独創的で、また周辺から見える姿も人々の観賞の対象となっており、芸術上及び観賞上の価値、日本庭園史における学術上の価値が高い。

《天然記念物の新指定》 1件

1 葦毛湿原【愛知県豊橋市】

葦毛湿原は、愛知県豊橋市東部の丘陵地に広がる湿原で、土壌が薄く、常に水が地表面を流れ広がる特徴をもつ湧水湿地であり、国内最大級の面積を誇る。葦毛湿原は、暖温帯の低標高地域にもかかわらず、寒地系植物、暖地系植物、大陸系遺存植物が混在する特徴がある。

寒地系植物としては、国内での分布の中心が主に東北地方の亜高山帯の湿原であるヌマガヤ、イワショウブ、ミズギク、ミカヅキグサなどが見られ、これらの種は氷期に低地に進出し湿地に取り残された遺存種である。一方、暖地系植物としては、熱帯アジアが分布の中心であるミカワシンジュガヤ、ケシンジュガヤといったシンジュガヤ類や日本に自生する4種すべてのミミカキグサ類などがみられ、大陸系遺存植物としては、日本では阿蘇などの草地に見られるハルリンドウが隔離分布している。また、周伊勢湾地域には、この地域に固有、準固有あるいは隔離分布する東海丘陵要素植物と呼ばれる植物群があり、

葦毛湿原は、この植物群の主要な生育環境になっている。ここでは、トウカイコモウセンゴケ、ミカワシオガマ、ヒメミミカキグサ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ、クロミノニシゴリの6種の生育が確認されている。

このように、葦毛湿原は、異なる生育環境由来の植物が混在し、地域固有の植物群が生育する特異な生態系であり、生態学的、植物地理学的に価値が高い。

《史跡の追加指定及び名称変更》 3件

1 志段味古墳群【愛知県名古屋市】

しろとりづか
白鳥塚古墳

おわりべじんじゃ
尾張戸神社古墳

なかやしろ
中社古墳

みなみやしろ
南社古墳

しだみおおつか
志段味大塚古墳

かってづか
勝手塚古墳

しろとり
白鳥古墳群

(東谷山白鳥古墳に隣接する白鳥5号墳・7号墳を追加指定し、名称を白鳥古墳群に変更する)

濃尾平野の東端、東谷山の山頂から西麓に、古墳時代前期から終末期にかけてわずかな途絶期間を挟みながら大型前方後円墳、帆立貝式古墳、円墳、方墳の規模・墳形が異なる多数の古墳が築造された古墳群。今回、東谷山白鳥古墳に隣接する白鳥5号墳・7号墳を追加指定し、名称を白鳥古墳群に変更する。

2 阿波遍路道【徳島県阿南市】

だいにちじけいだい
大日寺境内

じぞうじけいだい
地藏寺境内

しょうさんじみち
焼山寺道

いちのみやみち
一宮道

じょうらくじけいだい
常楽寺境内

おんざんじみち
恩山寺道

たつえじみち
立江寺道

かくりんじみち
鶴林寺道

かくりんじけいだい
鶴林寺境内

たいりゅうじみち
太龍寺道

かみち
かも道

たいりゅうじけいだい
太龍寺境内

いwayみち
いway道

びやうどうじみち
平等寺道

びやうどうじけいだい
平等寺境内

うんべんじみち
雲辺寺道

(^{びやうどうじ}平等寺境内^{びやうどうじみち}に向かう^{びやうどうじけいだい}平等寺道及び^{びやうどうじけいだい}平等寺境内を加える)

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道。これまでに阿波国（徳島県）分として、^{ふだしょ}札所寺院5箇所、遍路道10箇所を指定している。今回、第二十二番札所^{びやうどうじけいだい}平等寺境内に向かう平等寺道及び平等寺境内を追加指定する。

3 ^{と き へんろみち}土佐遍路道【^{こうちけん と き し}高知県土佐市・^{すくもし}宿毛市】

ちくりんじみち
竹林寺道

ぜんじぶじみち
禅師峰寺道

きよたきじけいだい
清瀧寺境内

しょうりゅうじみち
青龍寺道

かんじざいじみち
観自在寺道

(^{きよたきじけいだい}清瀧寺境内^{かんじざいじみち}及び^{かんじざいじみち}観自在寺道を加える)

空海ゆかりの霊場を巡拝する霊場道。これまでに土佐国（高知県）分として、^{ちくりんじみち}竹林寺道、^{ぜんじぶじみち}禅師峰寺道、^{しょうりゅうじみち}青龍寺道を指定している。今回、第三十五番札所^{ふだしょ}の^{きよたきじけいだい}清瀧寺境内（土佐市）と、第四十番札所^{かんじざいじ}の^{かんじざいじ}観自在寺に向かう道（松尾峠、宿毛市）を追加指定する。

《史跡の追加指定及び一部解除》 2件

1 ちやうしづかこふん 銚子塚古墳【いとしまし 福岡県糸島市】

4世紀後半に築造された前方後円墳。墳長は96.5m以上で、げんかいなだ 玄界灘沿岸で最大級をなす。埋葬施設はたてあなしきせきしつ 竪穴式石室で、8面のさんかくぶちしんじゆうきやう 三角縁神獸鏡を含む銅鏡10面などの豊富な副葬品が出土するなど重要。後円部側と前方部側面の一部を追加指定するとともに、地番変更によって生じた指定範囲の錯誤を解消する。

2 ともえだかわらかまあと 友枝瓦窯跡【ちくしやうぐんこうげまち 福岡県築上郡上毛町】

7世紀末から8世紀初め頃の、かこうがん 花崗岩の岩盤をトンネル状に割り抜いたのぼりがま 登窯が良好な状態で保存されている。窯跡に付帯する排水施設などを検出した地点を追加指定するとともに、地番変更によって生じた指定範囲の錯誤を解消する。

《史跡の追加指定》 19件

1 じゃけつざんこふん 蛇穴山古墳【まえばしし 群馬県前橋市】

7世紀後半に築造された墳長44mの方墳。墳丘の周囲にはしゆうごう 周濠・しゆうてい 周堤が、さらに周堤の外側にはがいしゆうこう 外周溝が巡り、総長は82mに及ぶ。終末期古墳としては極めて大型で、精緻なよこあなしきせきしつ 横穴式石室をもつなど重要。周濠と墳丘の一部を追加指定する。

2 ほうとうざんこふん 宝塔山古墳【まえばしし 群馬県前橋市】

7世紀中葉に築造された墳長66mの方墳。墳丘の周囲には周濠が巡り、総長は102mに及ぶ。埋葬施設はまいそう 横穴式石室で、よこあなしきせきしつ 玄室中央にげんしつ 刳拔式家形石棺をもつ。くりぬきしきいえがたせつかん 終末期古墳としては極めて大型で、精緻な横穴式石室と石棺をもつなど重要。周濠の一部を追加指定する。

3 せんげんやまこふん 浅間山古墳【たかさきし 群馬県高崎市】

4世紀後半から5世紀初頭に築造された前方後円墳。墳長は171mで、周囲にはうちぼり 内濠、しゆうてい 周堤、そとぼり 外濠が巡り、その範囲は約330mに及ぶ。同時期の古墳としては東日本最大規模を誇る大型前方後円墳として重要。外濠の一部を追加指定する。

4 ^{こうずけのくにたごぐんしょうそうあと} ^{たかさきし} 上野国多胡郡正倉跡【群馬県高崎市】

^{わどう}和銅4年（711）に建郡された、^{でんそ} ^{すいこ}上野国多胡郡の田租や出挙で徴収した稲などを収納する倉庫群跡。特別史跡^{たごひ}多胡碑の真南約350mに位置し、発掘調査によれば正倉の創建は8世紀中頃である。律令国家の税の徴収や地方支配の在り方を考える上で重要。

5 ^{むさしこくぶんじあと} ^{つけたりとうさんどうむさしみちあと} ^{こくぶんじし} 武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡【東京都国分寺市】

奈良時代、聖武天皇が全国に建立した国分寺の一つ。^{そうじあと} ^{にじあと}僧寺跡・尼寺跡及びその間を南北に走る^{とうさんどうむさしみち}東山道武蔵路からなる。現在までに^{こんどうなどがらん}金堂等伽藍中枢部の史跡整備が進められている。今回、伽藍中心から北西の伽藍地と寺院地内西側、寺院地の南辺区画の箇所等を追加指定する。

6 ^{たちばなかんが いせきぐん} ^{かわさきし} 橘樹官衙遺跡群【神奈川県川崎市】

古代武蔵国橘樹郡の官衙遺跡。7世紀後半における^{こおり}評の役所の可能性のある建物の出現から、郡家の成立及び廃絶に至るまでの経過をたどることができる^{けう}稀有な遺跡。7～10世紀の地方統治拠点の実態とその推移を知る上で重要。今回、条件が整った部分を追加指定する。

7 ^{さど きんぎんざんいせき} ^{さどし} 佐渡金銀山遺跡【新潟県佐渡市】

近世から近代に稼働した我が国を代表する^{どうゆう} ^{わりと}鉱山遺跡。道遊の割戸で知られる^{あいがわきんぎんざん}相川金銀山、相川に先んじて開発された^{つるし} ^{にしみかわ}鶴子銀山や西三川砂金山、さらに^{きたざわふゆうせんこうば} ^{おおまこう}北沢浮遊選鉱場や大間港等の近代関係の施設からなる。今回、沢根から鶴子銀山を経て相川金銀山に至る^{にしいきりみち}西五十里道及び^{つるしみち}鶴子道を追加指定する。

8 ^{おおくるわかいづか} ^{なごやし} 大曲輪貝塚【愛知県名古屋市】

名古屋市中央部の^{やごときゆりょうじょう}八事丘陵上に立地する縄文時代前期中葉の貝塚。カキ・ハマグリ・ハイガイを主体とし、前期の^{ほこのきしき}銚ノ木式土器、^{せきぞく} ^{ませいせきふ}石鏃や磨製石斧等の石器のほか、東海では類例の乏しい^{ばんじょうどぐう}板状土偶が出土しており、当時の生業と環境、祭祀を知る上で重要。今回、条件の整った箇所を追加指定する。

9 ^{おうみおおつのみやにしこおりいせき} ^{おおつし}
近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】

667年、^{なかのおおえのおうじ} ^{てんじ}中大兄皇子（天智天皇）が飛鳥から^{せんと}遷都し、琵琶湖西岸に営まれた宮跡。672年の壬申の乱で廃絶した。これまでの発掘調査によって、^{だいりせいでん} ^{かいろう}内裏正殿、南門、回廊、塀等の宮跡中枢部分が見つかる。今回、^{だいりなんめんかいろう} ^{だいりせいでんひがしがわ}内裏南面回廊や内裏正殿東側の地点を追加指定する。

10 ^{たかやすせんづかこふんぐん} ^{やおし}
高安千塚古墳群【大阪府八尾市】

^{いこまさんけい} ^{たかやすさんろく}生駒山系の高安山麓西側斜面周辺に古墳時代後期から終末期に造営された近畿有数の大型群集墳。古墳群の特徴の変遷から、当時の渡来系集団と地域社会の関係を考える上で重要。今回、一体的に保護を図るため古墳群西方に立地する前方後円墳の^{こおりかわにしづか}郡川西塚古墳を追加指定する。

11 ^{ふるいちこふんぐん} ^{はびきのし}
古市古墳群【大阪府羽曳野市】

^{こむろやまこふん}
古室山古墳

^{せきめんやまこふん}
赤面山古墳

^{おおとりづかこふん}
大鳥塚古墳

^{すけたやまこふん}
助太山古墳

^{なべづかこふん}
鍋塚古墳

^{しろやまこふん}
城山古墳

^{みねがづかこふん}
峯ヶ塚古墳

^{はかやまこふん}
墓山古墳

^{のなかこふん}
野中古墳

^{おうじんてんのうりょうこふん} ^{がいごうがいてい}
応神天皇陵古墳外濠外堤

^{はちづかこふん}
鉢塚古墳

^{やまこふん}
はざみ山古墳

^{あおやまこふん}
青山古墳

^{ばんしょやまこふん}
蕃所山古墳

^{いなりづかこふん}
稻荷塚古墳

^{ひがしやまこふん}
東山古墳

わりづかこふん
割塚古墳

からとやまこふん
唐櫃山古墳

まつかわづかこふん
松川塚古墳

じょうがんにやまこふん
浄元寺山古墳

はくちょうりょうこふんしゅうてい
白鳥陵古墳周堤

なかつひめのみことりょうこふんしゅうてい
仲姫命陵古墳周堤

大阪府の東南部に所在する4世紀後半から6世紀中葉にかけて形成された、巨大前方後円墳をはじめ小型の円墳・方墳等で構成され、列島の古墳時代を考える上で重要な古墳群。今回、墓山古墳と応神天皇陵古墳外濠外堤の一部で条件の整った区域を追加指定する。

12 国府遺跡【大阪府藤井寺市】

縄文時代の人骨を伴う埋葬地、弥生時代集落、古代の河内国府関連遺構などが確認された複合遺跡。大正6年に京都帝国大学の濱田耕作により調査される等、学史的にも極めて重要。今回、遺跡西部の条件が整った部分について追加指定する。

13 藤原京跡【奈良県橿原市】

すざくおおじあと
朱雀大路跡

さきょうしちじょういち にぼうあと
左京七条一・二坊跡

うきょうしちじょういちぼうあと
右京七条一坊跡

持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代の都城跡。中心にある藤原宮跡は特別史跡となっている。朱雀大路跡は宮の正門である朱雀門から南へ延びる道路跡で、それを境に西側を右京、東側を左京に区分する。今回、左京七条二坊跡で条件の整った部分を追加指定する。

14 毛原麿寺跡【奈良県山辺郡山添村】

大和国と伊賀国境付近の山中に立地する大規模寺院跡。笠間川の谷を南に見下ろす緩斜面に金堂・中門・南門が南北に並び、深い谷を隔てた西側に別院とみられる四面廂建物がみられる。奈良時代前期の寺院造営、山林修行や仏教政策を知る上で重要。今回、条件が整った箇所を追加指定する。

15 ^{わかやまじょう}和歌山城【^{わかやまし}和歌山県和歌山市】

^き紀の川河口部に位置する、紀伊徳川家の居城となった平山城の近世城郭。^{とらふす}虎伏山に天守を設け、その東に本丸があり、これらの廻りに二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸を配置し、高い石垣と内堀で画する。砂の丸の南に位置する扇の芝の一角を追加指定する。

16 ^{つくりやまこふん}造山古墳 ^{だいち}第一、^に二、^{さん}三、^{よん}四、^ご五、^{ろくこふん}六古墳【^{おかやまし}岡山県岡山市】

5世紀前半に築造された墳長350mで全国4位の規模となる大型前方後円墳の造山古墳と、その前方部側に築造された古墳群。第五古墳（^{せんぞく}千足古墳）は装飾のある九州系の横穴式石室をもつ墳長81mの帆立貝式古墳で、その墳丘と^{しゅうごう}周濠の一部を追加指定する。

17 ^{げんこうぼうらい}元寇防塁【^{ふくおかし}福岡県福岡市】

^{ぶんえい}文永11年（1274）のモンゴル襲来後、^{しっけんほうじょうときむね}執権北条時宗が^{けんじ}建治2年（1276）に博多湾一体にわたり、九州の御家人に命じて構築させた石築地。今回、九州大学箱崎キャンパス跡地で発見された部分を、石築地跡に隣接した溝状遺構を含めて追加指定する。

18 ^{おおともし いせき}大友氏遺跡【^{おおいたし}大分県大分市】

戦国時代大友氏の領国支配の拠点となった遺跡。創建段階（14世紀）の遺構が良好に遺存し、対外交易の拠点としても機能したことを示す^{まんじゅじあと}万寿寺跡を追加指定する。

19 ^{あたかいづか}阿多貝塚【^{みなみ}鹿児島県南さつま市】

薩摩半島西岸に立地する縄文時代前期の貝塚。前期の土器が多量に出土しており、早期から中期にかけて南九州の土器型式が^{そういてき}層位的に出土している。貝類をはじめとする^{どうぶついでんたい}動物遺存体も多く、当時の生業・環境を知る上で重要。今回、条件が整った箇所を追加指定する。

《名勝の追加指定及び名称変更》 1件

1 おくのほそ道の風景地【福井県南条郡南越前町】

そう かまつばら
草加松原

が ん ま ん が ふ ち じ う ん じ け い だ い
ガンマンガ淵（慈雲寺境内）

は ち ま ん ぐ う な す じ ん じ ゃ け い だ い
八幡宮（那須神社境内）

せ っ し ょ う せ き
殺生石

ゆ ぎ ょ う や な ぎ し み ず な が や な ぎ
遊行柳（清水流るゝの柳）

く ろ つ か い わ や
黒塚の岩屋

た け く ま ま つ
武隈の松

お か て ん じ ん み や し ろ
つゝじが岡及び天神の御社

き し た や く し ど う
木の下及び薬師堂

つ ぼ の い し ぶ み い し
壺碑（つぼの石ぶみ）

お きの い
興井

す え ま つ や ま
末の松山

ま が き し ま
籠が島

き ん け い さ ん
金鷄山

た か だ ち
高館

さ く ら や ま
さくら山

も と あ い か い
本合海

み さ き だ い し ぎ き
三崎（大師崎）

き さ か た お よ し お こ し
象潟及び汐越

お や
親しらず

あ り そ う み
有磯海

な た で ら け い だ い き せ き
那谷寺境内（奇石）

ど う め い ふ ち や ま な か い で ゆ
道明が淵（山中の温泉）

ゆ の お と う げ
湯尾峠

けいの明神（氣比神宮境内）

おおがきふなまちかわみなと 大垣船町川湊

まつおぼしろう
松尾芭蕉は『おくのほそ道』の旅で、福井からつるが敦賀に向かう途中でゆのおとうげ湯尾峠を越えた。現在も、峠への道や石段、ちややあと茶屋跡やそのいしがきなど石垣等がよく遺っており、おうじ往時の様子を今に伝えていることから、湯尾峠を追加指定する。

《天然記念物の追加指定》 1件

1 いしとかば 石戸蒲ザクラ【埼玉県北本市】

いしとかば
石戸蒲ザクラは、埼玉県北本市に所在するとうこうじけいだい東光寺境内にある、古来より著名な桜のきょじゅ巨樹である。特殊な種類としても知られており、エドヒガンとヤマザクラのしぜんざっしゅ自然雑種とされている。こんけい根系の保全を目的として、指定地北側の土地を追加指定する。